



小樽商科大学は2011(平成23)年に
創立100周年を迎えます。

学びのバトン。

Otaru University of Commerce

小樽商科大学のカリキュラムと 知の基礎系



教育開発センター学部教育開発部門

小樽商大のカリキュラム

本学の授業科目は大きく、**共通科目**、**学科科目**、**日本語科目**、**国際交流科目**に分かれます。

共通科目

幅広い教養と広い視野を身につけるための科目群です。さらに、次のように分かれます。

基礎科目／人文・社会・自然・健康科学の分野を幅広く学ぶ科目。

これらの科目は、さらに5つの系に分かれています。
(以下の図を参照)

外国語科目／教養・実践としての外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、朝鮮語)を学ぶ科目

学科科目

各学問分野を専門的・体系的に学ぶための科目群です。さらに、次のように分かれます。

基幹科目／専門4学科(経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科)の学問分野の基礎的な科目

発展科目／専門4学科の学問分野の応用的な科目

専門共通科目／共通科目の各学問分野を専門的に学ぶ科目

教職共通科目／教員免許の取得に必要な科目

研究指導／特定の教員のもとで特定のテーマについて研究し、卒業論文を作成する。いわゆるゼミナール。

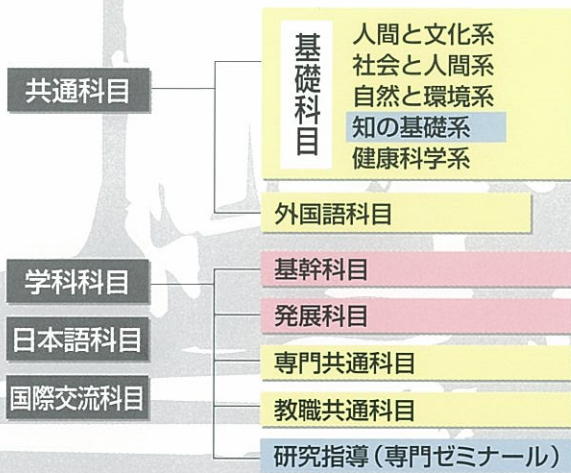
(*夜間主コースの場合は、基幹科目と発展科目は、それぞれ、コース基幹科目、コース発展科目となり、研究指導と卒業論文が分かれています。)

日本語科目

留学生のための科目です。

国際交流科目

外国語で行われる科目です(詳しくは右欄参照)。



国際交流科目は外国語で行われる

国際交流科目は、外国語で行われる科目です。これはさらに次の2つに分かれます。

①本学の交換留学制度を利用して外国の大学で修得した科目

②本学の**短期留学プログラム**(交換留学制度により本学が受け入れた外国人留学生のために英語で行われる授業科目)を受けて修得した科目

外国語の得意な学生は、これらの科目を学ぶことによって外国語の能力を磨くことができます。修得した**国際交流科目**は、**共通科目**や**学科科目**として認定されます。

研究指導(専門ゼミナール)は大学生活の拠点

3,4年と2年間かけて学ぶ**研究指導**(専門ゼミナール)では、ゼミナールごとに設定されている研究テーマについて、学生がそれぞれの課題について発表と討論を行いながら、専門知識・理論を深めます。ここでは自発的学習が原則です。

2年間の研究成果を**卒業論文**としてまとめなければなりません。

各ゼミナールには、専用の部屋(ゼミ室)が与えられます。

ゼミナールでは、勉強以外にも、コンパ、合宿、ゼミ旅行、他のゼミと合同研究なども行われます。このような交流を通じてメンバーどうしが強いきずなで結ばれ、すべての学生にとってゼミナールは学生生活の拠点となります。

研究指導は、原則として必修です。

研究指導は、専門4学科だけでなく、**共通科目**を担当する教員によっても開講されます。したがって、文学、歴史学、心理学、社会学、健康科学、自然科学などの分野をテーマとする**研究指導**を履修することもできます。

ゼミナール大会, 学生論文賞

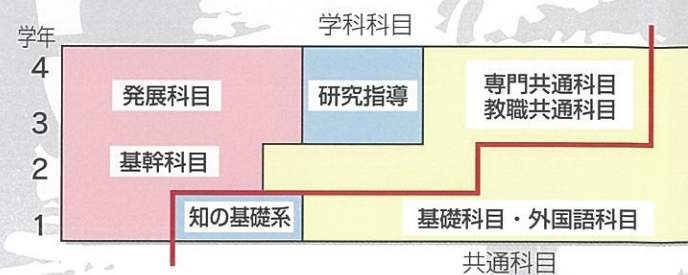
学生の自主的な研究を促進するためのものとして、**ゼミナール大会**と**学生論文賞**があります。**ゼミナール大会**は、学生の自主的な団体「ゼミナール協議会」が運営するゼミナールの研究成果発表会です。毎年12月に開催され、多くのゼミナールが参加します。

学生論文賞は、株式会社北洋銀行の支援のもとに、本学の教育開発センターとビジネス創造センターが共同開催する学術研究奨励事業です。応募論文のうち上位入賞者には学術研究奨励金が支給されます。

くさび型カリキュラム

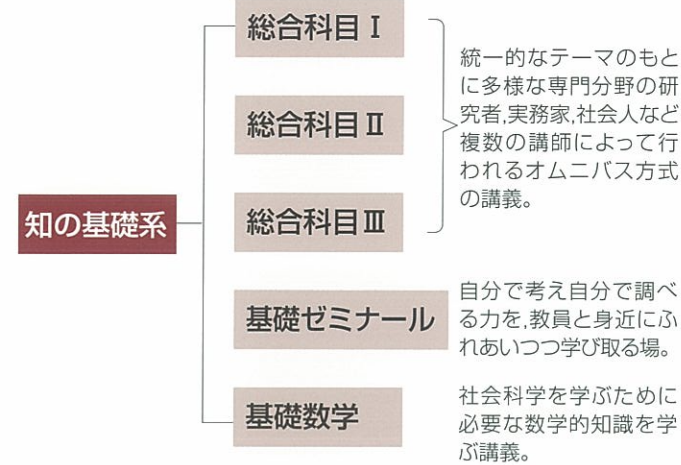
共通科目は、主として1,2年次に学修し、2~4年次にかけて**専門共通科目**としてさらに専門的に学ぶことができるようになっています。これに対し、**学科科目**は1,2年次には基礎的な学修をし、3,4年次により幅広く専門的に学ぶようにカリキュラムが作られています。このように、基礎的な科目から専門的な科目へと年次が進むにつれて徐々に学修を増やしていく方法を「くさび型カリキュラム」といいます。

■ 主として一般教育等と言語センターの教員が担当します。 ■ 主として専門4学科の教員が担当します。 ■ 一般教育等、言語センター、専門4学科の教員が担当します。



知の基礎系とは?

知の基礎系は共通科目・基礎科目の5つの系の1つで、以下の授業科目により構成されています。



知の基礎系の特徴は、それが、高校と大学の橋渡し(接続教育)を目的としていることにあります。

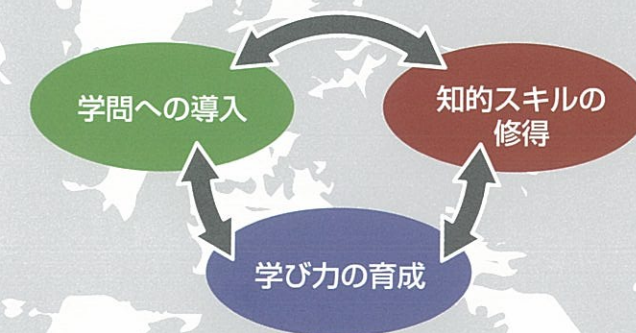
高校での学習と大学の学びの間には大きな断絶があります。高校での学習が知識の修得を主眼とするのに対し、大学の学びでは、修得した知識に基づいて課題を発見し、課題を洞察する力の育成が重要となります。

大学では、教師から教えられるだけでなく、意欲・関心に応じて主体的に学ぶことが求められます。また、その学びも、他者とのコミュニケーションのなかで行われるものです。

知の基礎系とは、このような断絶を埋め、大学での学びにスムーズに移行できるように支援するための科目群なのです。一年次に必ず履修するようにしてください。

知の基礎系の教育目的

知の基礎系の授業科目は、「学び力の育成」、「学問への導入」、「知的スキルの修得」を目指しています。



学び力とは、大学で学ぶことに価値を見いだす力、学習上の課題に取り組む意欲をいいます。

学問への導入とは、学生の知的好奇心を喚起し、多様な学問分野が相互に関連していることを認識させることです。

知的スキルとは、文献を読む習慣、文章やレポートを書く力、議論・発表する力、データや数字を理解する力等をいいます。

総合科目を特徴づける5つのキーワード

知の基礎系の授業科目のなかの**総合科目Ⅰ~Ⅲ**は、統一的なテーマのもとに学内外の複数の教員・講師が協力して行うオムニバス方式の講義です。これまで、多様な講義を展開してきました。

総合科目Ⅰ~Ⅲの内容(詳細はシラバス参照)は5つのキーワードで特徴づけることができます。

「学問原論」

大学とは何か、小樽商科大学で学ぶことの意義とは何かを、各講師の体験、実践を踏まえて学びます。

「地域」

地域の歴史・文化を学び、地域が抱える課題に取り組むことを通じて、学問への導入と学び力の育成を行います。

「キャリア」

卒業後のキャリア・デザイン(職業設計)を考える機会を与えることにより、学問への導入と学び力の育成を行います。

「現代社会の諸問題」

現代社会の諸問題を多様な学問分野(主として社会科学)の視点から解き明かすことにより、社会問題に目を向けさせ、学問への導入と学び力の育成を行います。

「世代間交流」

講義の中では、学生が、教員、OB・OG、社会人、上級生等、異なる経験・文化をもつ人々と交流することにより、大学生活への順応を促し、自己を見つめる機会を与える方法を併用しています。

基礎ゼミナール 自発的学習による少人数の授業

基礎ゼミナールは、知的スキルの修得を目指し、15人ほどの少人数で行われます。

ここでは、特定のテーマ・内容のもとに、学生が文献を読み、レポートを書き、研究発表するという方法で授業が進められます。

学生の自発的学習が原則で、知的関心を高め、大学での学習の方法を身につける場です。

基礎ゼミナールは、教員と学生の交流の場でもあります。友人と出会い、大学での学びに慣れ、大学生活にスムーズに移行することができます。

基礎数学では社会科学を学ぶために必要な数学的知識を学ぶ

本学の講義では数学的知識を必要とすることがあります。

基礎数学では、社会科学を学ぶための数学を学びます。